

板金加工の可能性に挑戦

デザイン×金属加工＝新事業

同社の場合、デザイン図をもらえば、そこから三次元CADで設計図を作成。同時に、板金加工するための平面設計図も起こして製作に入る。現地調査から設置工事までもワンストップで受けている。

サインやモニュメントは、複雑な形状のものが少なくない。そこで活躍するのが、同社の「職人衆」たちだ。機械にはできない、手動のレーザー溶接などを駆使して仕上げる。受注品のほとんどが一点物で期間も短い。試作がない「一発勝負」のため、製造工程にも毎回工夫を凝らすという。

■年商30億円目指す

1967年設立の同社。当時は照明器具の板金部品などを主体としており、バブル崩壊の影響もなく、ずっと右肩上がりだった。しかし、リーマン・ショックや東日本大震災後に売り上げが激減。創業以来の危機に見舞われた。

「今ある仕事が、この先いつまで続くかわかりません。製造業の国内市場も縮小しており、先を考えるようになりました」と三瓶修社長。そこでデザインという「未経験の仕事」

に挑戦した。

「意匠金物」の事業は、今や売り上げの約3割を占めるまでになり、会社の規模も大きくなっている。三瓶

社長は「2030年には社員100人、年商30億円にしていきたいです」とチャレンジを続けている。

未経験に挑戦し用途開拓

日崎工業（川崎市川崎区大川町、☎044・366・7711）は、得意とする板金加工技術に、以前は未知の領域だったデザインを融合。優れた職人技とデザインで作られる「意匠金物」の分野で、販路拡大に成功している。

日崎工業

各種サインやモニュメント

ト、造形物などの「意匠金物」を手掛ける、従業員数25人の企業。製作実績の中には都内の商業施設でイベントに使われる大型造形物や、駅構内に設置されているモニュメントなど、誰もが一度は目にしたことがあるようなものもある。



「高齢者雇用」を考える YUVEGがシンポ開催



高齢者雇用について考えようと、横浜国立大学発の産学連携支援組織「YUVEG（ユーベック）」はこのほど、『「まだ出来る人」の“隙間時間”活用』をテーマにしたシンポジウムを横浜市中区海岸通の波止場会館で開催した。

基調講演として「定年後のシニアの処遇低下はどこまで許されるのか」について、同大学大学院の石崎由希子准教授と米村幸太郎准教授が話した。

後半は中小企業の経営者も加わり、パネルディスカッションが行われた。その中で、日本濾水機工業（横浜市南区井土ヶ谷中町）の橋本美奈子社長は「（従業員が）定年後も自分のライフスタイルに応じ働き続けられるような会社を目指すべきです。また、これからは年金が不足する時代です。『稼ぎたい』と考える高齢者に対し、会社としてどう向き合っていくべきか考えなくてはなりません」と語った。

一方、ダイバーシティ経営を進める、プレス加工の栄和産業（綾瀬市吉岡東）の伊藤正貴社長は「シニア人材は周りのお手本と言えます。長く働き続けるために、仕事に対するやりがいを持ってもらうことも大切です」と話していた。

企業経営者の意見も

中小こそSDGsを

東京きらぼしFGがセミナー

東京きらぼしフィナンシャルグループ（東京都新宿区）などは9月17日、川崎市幸区大宮町の起業家支援拠点、K-NIC（ケーニック）で、SDGs（持続可能な開発目標）をテーマにしたセミナーを開催した。

上場企業を中心に広がりを見せるSDGsに対する理解を深め、経営リスク予防やビジネスチャンス創出につなげてもらおうと企画した。

登壇した環境省職員は「SDGsと

いう“共通言語”を持つことで、地域の中小企業にとっては新たなビジネスチャンスにつながります」と強調した。さらに、SDGsに取り組むことで、社会や環境問題の解決だけでなく、販路開拓にもつながった中小企業の事例も紹介されていた。



成長産業の集積地へ

産業支援施設、さがみはら産業創造センター（SIC、相模原市緑区西橋本、☎042・770・9119）は、ロボットやバイオなど、先端分野での研究開発型企業を支援する専用施設「SIC-2 R&D Lab.（アールアンドディーラボ）」を稼働させた。研究開発に適したラボとマルチラボタイプの部屋を計29室備えた。都内や県内から企業を呼び込み、成長産業の企業集積地を目指す。1階には飲食業での創業を支援する「キッチンラボ」も置いた。

近隣地域からの進出も想定

6階建てで、延べ床面積は約2735平方メートル。部屋は大型機械やロボット、実験設備などが置ける仕様になっており、複数の部屋を借りることも可能だ。都内からの交通アクセスが良く、多摩ニュータウンも近いため、人材獲得がしやすいことなどから、県内だけでなく近隣地域からの進出も想定する。

ロボットやバイオのほか、ヘルスケア、エネルギー、AI（人工知能）など成長分野の企業に対し、SICはこれまで培ってきた支援ノウハウを駆使してサポートする。具体的には経営支援のほか、入居企業同士や入居企業と地域企業との交流などを促していく。

橋元雅敏社長は「成長性がある先端技術の集積とその連携を図っていきます。地域から新産業を創造していきたいです」と話している。



■飲食業の支援も

一方、飲食業での創業を支援するスペースも設置した。「キッチンラボ」と名付けた同スペースは、普段は入居企業で働く従業員のリフレッシュスペースとしての役割があるが、本格的な厨房設備も設置。飲食業を考える起業家予備軍などに対し、場所を提供することでマーケティングや実践の場としても活用してもらう。

取材メモ

SICは、相模原市や中小企業基盤整備機構（中小機構）などが出資する第三セクターのインキュベーション施設。今年で設立20周年を迎えた。現在、創業間もない企業などが入居する「SIC-1」、発展期にある企業が入居する「SIC-2」、ものづくり系企業が入居する「SIC-3」の計3施設を擁している。入居企業は100社ほど。入居率は常に90%以上。これは、全国のインキュベーション施設の中でもトップクラスの水準だ。

今回の「R&Dラボ」はSIC-2を増築した。これにより、創業からものづくり、最先端の研究開発、飲食業支援に至るまで、あらゆる支援ニーズに対応できるインフラは整った。今後はソフト面での支援をいかに拡充していくかも注目される。

フォークが非常用電源に



建設機械販売・レンタルの旭フォークリフト（相模原市中央区田名、☎042・762・4630）は、9月の台風15号で甚大な被害を受けた千葉県内のフォークリフトユーザーに対し、同社が開発した自社製品「ABI（旭バッテリー・インバーター）」を無料で貸し出した。

同製品は昨年5月に製品化したもので、電動フォークリフトのバッテリーから家電製品に使用可能な100ボルト電源を取り出せる災害用電力変

台風被害の千葉県内に無料貸し出し

換器。持ち運びしやすく、保管もできる頑丈なジュラルミンケースとの一体型だ。

重さ5・5キロ。ケースを開くと、変換器本体とプラグ、100ボルト用コンセントが搭載されている。フォークリフトのバッテリー部分にプラグを接続し、本体スイッチを押すだけで利用できる。

フォークリフト1台で携帯電話なら約270台分、パソコンなら約55時間分の電力が賄える。今回、電力の復旧が遅れている地域では、連絡手段である携帯電話などの充電にも不自由することから、現地でも重宝されたという。横江利夫社長は「テレビで被害の様子を見て一刻も早く役に立ちたい」と思い、無

料貸し出しを決めました」と話しており、今後も引き続き支援していく考えだ。



旭フォークリフト

横商の女性会、全国で最優秀賞に

横浜商工会議所・女性会による異業種勉強会「女性塾」が、全国417ある商工会議所の中で、「個として光る」女性会事業として最優秀賞（日本商工会議所会頭賞）を獲得した。9月5、6の両日、鹿児島県内で開催された全国大会で同会の河原隆子会長（関東陸送）が、日商の三村明夫会頭から表彰された。

同会は「行動する女性会」として、2012年から女性経営者の自己研鑽や地域活性化などを目的に定期開催。さまざまな業種で構成される会員が講師となり、経営者としての資質向上に励んできたという。

年3回の小規模勉強会のほか、大規模女性塾も年1回開催。著名な女性経営者などを招くなどして、毎回150人が参加している。この女性塾を始めたことで、2019年までに会員数が30人以上増加。このうち4割以上が50歳以下であるなど、結果を出していることなどが高く評価された。



積極的な勉強会開催で会員数増加

社長さんが知っておきたい冠婚葬祭のマナー

前回、お葬式に参列される方に向けて、場面ごとのシブシブなごあいさつをご紹介しました。今回は、お葬式のごあいさつで気を付けたい言葉をお伝えします。

お葬式は、幅広い年代の方が集まってくる“公の場”です。良識ある態度と失礼のない言葉遣いは、礼儀として必須です。その中で「忌み言葉」と言われているものがあります。

ご存じの方もいらっしゃると思いますが、説明しますと、「忌み（いみ）言葉」とは、慶弔の場において、縁起の悪い言葉、不幸・不吉なことや、不幸が重なること、不幸を繰り返すことを連想させる言葉のことを指します。

お葬式ではごあいさつだけでなく、弔辞・弔電にもふさわしくないとされていますので、ご遺族に対する配慮として、避けるように気を付けたい言葉です。

それでは、忌み言葉とその言い換え方の一例をご紹介します。

（□忌み言葉→○言い換え例）

□度々→○よく／□引き続き→○これからも／□死ぬ→○亡くなる／□重ね重ね→○深く／□色々→○多くの □まだまだ→○もっと／□また→○改めて／□追って→○後ほど／□再び→○いま一度／□次々と→○順に

不幸が重なることや、不幸の繰り返しを連想させてしまう言葉は、「また誰かが亡くなってしまうかも…」と不安にさせてしまうので、言葉や文字にする際は覚えておくようにしましょう。

そして、このような言葉を頭の片隅に入れておきながら、関係性や状況に合った自分の言葉で素直な気持ちを伝えていねいにお伝えしましょう。自然に心遣いのマナーができると素敵ですよ。（清水誠葬具店副社長・清水ふじ代）

すぐに役立つ葬儀マナー② ～忌み言葉～

